

平成24年度 JCOMM賞の受賞者発表



JCOMM実行委員会では、平成24年4月13日までにご応募・ご推薦をいただいた取り組み・研究について、厳正に審査し、プロジェクト賞3件、デザイン賞3件、マネジメント賞2件、技術賞1件をそれぞれ平成24年度JCOMM賞として選定いたしました。対象者には、第7回JCOMMにて表彰を行います。また、会期中には受賞内容の展示も行われます。

JCOMM AWARD プロジェクト賞

- 「映画・ラジオ・LRT・シビックプライドを活用した富山の地域文化の活用と発展を企図した『とやまレールライフプロジェクト』」
(富山市, ㈱新日本コンサルタンツ, 高原兄(ミュージシャン), 藤井聡(京都大学大学院))
- 「京都らくなんエクスプレス—大学・民間・行政が協働で生み出し成長を続けるバスシステム—」
(京都大学大学院 低炭素都市圏政策ユニット, ㈱ケイルック, ㈱ジイケイ京都, 合同会社京都まちづくり研究所, 京都市)
- 「京都市右京区南太秦学区における住民参加型バス利用促進MMの継続的实施」
(右京区南太秦自治連合会(会長:高岡宏行), 京都市右京区役所, 京都市交通局, 朝倉真一(京都市文化市民局地域自治推進室), 土井勉(京都大学大学院工学研究科・医学研究科 安寧の都市ユニット))

JCOMM AWARD デザイン賞

- 「キャラクターやPRソングでイメージ統一したまめバス利用促進ツール一式」
(草津市都市建設部交通政策課, 立命館大学理工学部都市交通システム工学科交通システム研究室, ㈱地域未来研究所)
- 「どこでもバスブック・バスマップ松江とマップをベースにした様々な情報提供ツール」
(田中隆一(特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい))
- 「当別ふれあいバスシリーズ①『みんなのふれあい』、②『笑顔のリレー』」
(当別町, 一般社団法人北海道開発技術センター, 渡辺利奈)

JCOMM AWARD マネジメント賞

- 「『歩くまち・京都』実現に向けたスローライフ京都大作戦」
(京都市都市計画局歩くまち京都推進室, 一般社団法人システム科学研究所, 藤井聡(京都大学大学院))
- 「当別ふれあいバスの確保・維持に関する多様な取り組み」
(当別町, 当別町地域公共交通活性化協議会, ㈲下段モーターズ, 一般社団法人北海道開発技術センター)

JCOMM AWARD 技術賞

- 「中山間地域の高齢者を対象としたモビリティ・マネジメントにおける世帯訪問・対話の有効性の検証」
(神谷貴浩(中央コンサルタンツ), 佐々木邦明(山梨大学))

JCOMM賞についての情報は、HPにも掲載しております。各賞の概要や評価基準・詳細等はHPをご覧ください。
(<http://www.jcomm.or.jp/>)

第七回 JCOMM は、ポータルやセンタラムなど新しい交通機関の話題がホットな都市である富山県富山市にて、八月四日(土)、八月五日(日)の二日間

にわたって富山国際会議場を会場に開催いたします。みなさまのご参加をお待ちして換の場として活用ください。

また、昨年度と同様に、今年度の JCOMM は、土木学会 CPD (継続教育) プログラムとして申請し、認定を受けました(両日参加の場合十三・五単位)。

ぜひご参加の上、MM の情報交換の場として活用ください。



日本モビリティ・マネジメント会議
ニュースレター

Vol.24 ● 2012.6.30

【発行】 JCOMM実行委員会
ニュースレター編集部
【お問合せ】 筑波大学 谷口綾研
大阪大学 松村研
mail: info@jcomm.or.jp

MMに関連する会告掲載希望やご意見等、随時受け付けております。

参加申込方法

- 1) 氏名、2) 所属/勤務先、3) 連絡先(住所・e-mail アドレス)を JCOMM ホームページ上の参加申込フォームより送信してください。

▼参加申込締切 七月二十日

▼参加費(資料代含む) 三千元



第七回 JCOMM in 富山 プログラム

● 1日目 8月4日(土)

09:30-	レジストレーション
10:00-12:00	開催地企画
13:00-14:50	オープニングセッション 開催挨拶・市長講演・JCOMM 賞各賞授賞式 ・富山市長: 森雅志 会場: 富山国際会議場、以下同会場
14:50-16:00	ポスター発表 A (22 編)
16:00-17:00	口頭発表 1 (3 編) 震災と MM
17:00-18:00	口頭発表 2 (3 編) 地方での MM
18:30-	懇親会

開場時間中、平成24年度 JCOMM 賞受賞者の展示も同時に行います。

● 2日目 8月5日(日)

08:30-	開場
09:00-10:00	口頭発表 3 (3 編) MM 教育
10:10-11:10	口頭発表 4 (3 編) 多様な主体による MM
11:10-12:10	口頭発表 5 (3 編) メディアと MM
13:10-14:40	ポスター発表 B (22 編)
14:40-15:40	口頭発表 6 (3 編) これからの MM の展開のために
15:40-16:00	クロージングセッション

開場時間中、平成24年度 JCOMM 賞受賞者の展示も同時に行います。

*ポスター発表、口頭発表、特別セッションの詳細は、JCOMM の HP をご参照下さい。(<http://www.jcomm.or.jp/>)

イベント報告

欧州モビリティ・マネジメント 会議報告(その一)

去る六月十二日〜十四日、フランクフルト市で開催された第十六回欧州モビリティ・マネジメント会議における発表の一部をご紹介します。

■ 未就学児を対象とした

モビリティ・マネジメント

〜Move smart from the start〜

オーストリアのコンサルタント、FGN-AMORの発表は、欧州各地の未就学児を対象とした事例でした。背景として、クルマをモチーフにした玩具(例えばミニカー)に比べ、自転車や電車、バスなどの玩具は相対的に少ないことに警鐘を鳴らしつつ、子どものクルマ乗せられ移動のデメリットにつ

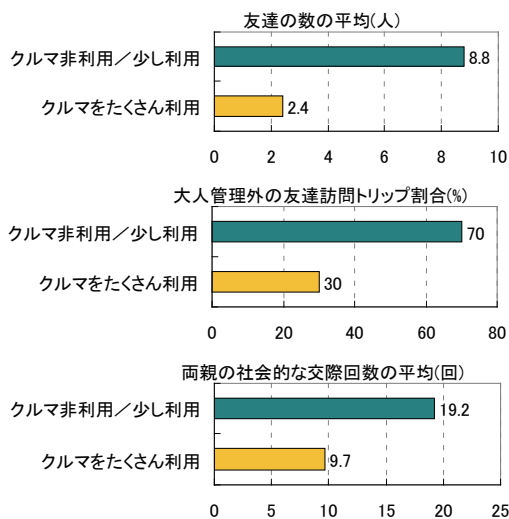


図 ウィーン市で1,000人以上を対象とした調査結果



第十七回はスウェーデンのイエブレ市で二〇一三年五月二九日〜三一日に開催される予定です。

いて衝撃的なグラフが紹介されています(図)。

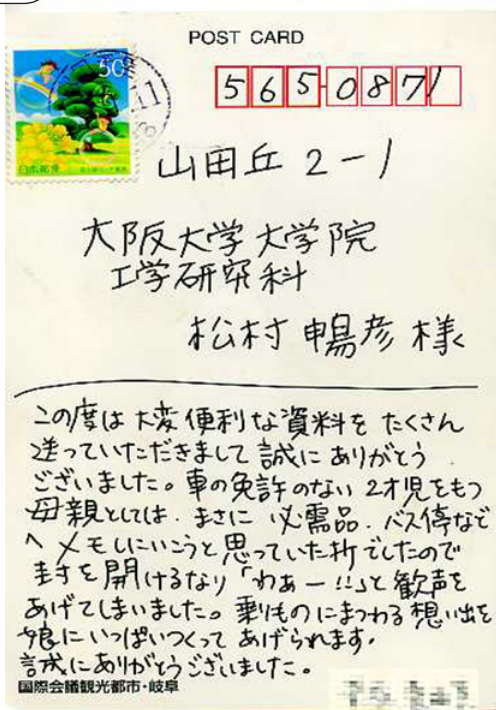
調査の詳細(サンプル抽出法、サンプル数、調査手法など)が不明なため、問い合わせ中ではありますが、ウィーン市では、クルマをたくさん利用している人と友達が四分の一に少なくなり、大人管理外の友達訪問トリップ割合が半分、両親の社交の回数も半減するという結果でした。また、徒歩の子どもは、クルマで運ばれている子どもに比べ、身体障害者が二三%少なく、うつ性は三四%、不安性は二二%、攻撃性は二三%少ないことが示されたグラフも報告されています。これを見る限り、子どものクルマ利用には非常に大きなデメリットが存在することになり、小さな子どもを持つ親を対象としたクルマ抑制行動誘発に向けた強力な動機付けになる可能性があると思われま

モビリティ・マネジメントの研究を始めた世紀末の頃、研究会や学会、査読などでえらい先生方から「松村君、君の研究じゃない。洗脳をしているだけだ。」などいろいろな意見を頂きました。かなり落ち込んで、心理学的なアプローチはやめようか、でも自分ではあまり魅力的とは思えない政策評価の研究に戻るのも耐えがたい、そんなことを考えていました。そんなときに次のような話がききました。アンケートにこたえていただいた住民の方から頂戴しました。

『この度は大変便利な資料をたくさん送っていただきまして誠にありがとうございました。2才児をもつ母親としてはまさに必需品。バス停などへメモしにいうかと思つていた折でしたので封を開けるなり「わあー!!」と歓声をあげてしまいました。乗りものにもつわる想い出を娘にいつづつあげられてあげられます。誠にありがとうございます。』

私とMM

第3回:大阪大学大学院 松村暢彦



このはがきを頂いたときは不覚にもいろいろんな感情がこぼれ混ざりながら、机の上で涙を流しながらしばらく突つ伏してしまいました。ひとつは、「俺は何をやっていたんだ」という恥ずかしい思い。大学の先生に褒めてもらうような研究をするために大学にいるわけではなく、世の中のためにできることをしようと思つて大学に残つたにも関わらず、いつの間にか大学の先生や査読者の顔色をうかがつて研究テーマを考えていた自分があまりにも醜悪な生き物みた

の思いが伝わった」という熱い歓喜の思い。正直にいうと自分はそのなかにバスが好きなのではなく、バスに乗ってほしいという直接的な思いはそれほど強くありません。ただ、バスという限られた空間のなかで、見知らぬ人たちと時間を共有する心地悪さを凌駕する美しさに惹かれて、それこそが社会を構成する人にとって必要不可欠な資質であり、人生を豊かに楽しむことができ

るかどうかの分かれ目だと思つていました。こうした思いが『乗りものにもつわる想い出を娘にいつづつあげられます。』という言葉に透けて見え、「よかつた」と自分の思いに対する自信もわいてきました。それから自分の中では、「世のため、地域のために自分がおもしろいと思えることをやる。」を基軸に、そのためになら自分の小さな専門領域にこだわることはやめようと思ひつづけています。幸いなことに地域の方々とおつきあいをしてい

この度は大変便利な資料をたくさん送っていただきまして誠にありがとうございました。車の免許のない2才児をもつ母親としては、まさに必需品。バス停などへメモしにいうかと思つていた折でしたので封を開けるなり「わあー!!」と歓声をあげてしまいました。乗りものにもつわる想い出を娘にいつづつあげられます。誠にありがとうございました。

国際会議観光都市・岐阜